

日本小児外科学会理事選挙 所信表明文

氏名：尾藤 祐子

卒年：1993年

抱負：(800字以内)

私は長く小児外科に従事し、数多くのこどもたちとそのご家族、こどもに関わる周囲の方々に向き合い、医師としての技術や心の持ち方を学びました。専門職として指導を賜った先輩、ともに研鑽した同僚、後輩に深く感謝すると同時に、小児外科領域の課題の解決とさらなる発展に自分が役に立つことはないかと考えるようになりました。

日本の小児外科は歴史が古い一方で、他分野で既に確立された体制が整っていると言いき難い現状があります。

学問としては、多くの小児外科疾患が病態が未解明で研究対象として多くのテーマを抱える一方、研究基盤が十分でない部分があります。

臨床では、歴史ある術式を考察し発展させることに加え、先進的医療についてもロボット支援手術をはじめとした患者さんの利益に直結する新技術や知識をスピード感をもって導入・開発し発展させる必要があります。地域医療や人材育成の仕組みも議論の途中です。

また様々な課題に気づき常に問題意識をもって小児外科に取り組む人材が活躍することが、結果的に病気のこどもたちに道を開き、小児外科医にも誇りとやりがいを見いだすことに繋がると考えます。

小児外科医は、高いレベルの手術と知識に基づく診療を行うと同時に、こどもが手術を受けるという一大事に直面する患者さんと家族に寄り添い、ともに困難を乗り越える優しさをもつ診療を行うことが大切です。小児外科は医療の原点となる非常に重要な特色を持ち、その存在感をもっと高めるべきと考えます。小児外科のプレゼンスを高め、こどもが安心して最適な治療を受けられる環境と、温かさを兼ね備えた優れた小児外科医を育てる場を整えることに貢献したいと思います。

ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

委員会活動歴：倫理委員会、教育委員会、データベース委員会、機関誌委員会、日本小児

医療保険協議会（四者協）栄養委員会、規約委員会、秋季シンポジウム小委員会